

札幌市環境プラザ運営協議会 令和2年度第1回実施概要

- 1 日時 令和2年8月4日（火）19：00～21：00
- 2 会場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2
- 3 出席者
 - （1）委員：伊井委員、鈴木委員、玉生委員、疋田委員、溝渕委員、高松委員、下川原委員
 - （2）札幌市：環境局環境政策課環境教育担当係長、環境政策課推進係 係員
 - （3）事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、市民参画課係長、主任指導員、指導員、サポートスタッフ

4 会議次第

- （1）開会
- （2）札幌市環境局環境活動推進担当課長 あいさつ
- （3）札幌市環境プラザ運営協議会について
- （4）委員近況報告
- （5）札幌市環境プラザ 概要説明
- （6）議事
 - ・令和元（2019）年度報告
 - ・令和2（2020）年度計画
- （5）札幌エルプラザ公共4施設館長 あいさつ
- （6）閉会

5 議事概要

（1）令和元（2019）年度報告 事務局から令和元（2019）年度の報告を行った。主にトピックとして挙げた事業について、写真等を紹介しながら説明した。

【質疑応答】

●環境保全アドバイザー、環境教育リーダーについて

Q 令和2年度の講師派遣制度全体会において、新規団体の利用を増やす方策として、教育委員会とお話をしたうえで学校への利用を促すのはどうかという意見があった。鈴木委員にもご相談できればと思うがどうか。

A 各学校での環境教育は様々な教科と関連付けながら取り組んでいるが、どうしても調べ学習が中心になってしまう中で講師派遣制度という体験学習をできる仕組みは素晴らしいと思うので、ぜひ多くの学校に積極的に活用していただきたい。

A 講師の派遣が秋・冬に少ないのは、学校で環境教育をあつかうのが夏に集中しているというのがあると思うので、カリキュラムの年間計画を立てる段階での調整ができればよいのではないかと。

●指定管理期間における目標に向けた進行度について

Q 平成 30 年からの 5 年間という指定管理期間の最終的なビジョンが見えない。というのも、今指標としている来館者数などが新型コロナウイルスによる問題で減少することが確実に予想できる今、今年度行っているものに質的評価を加えるように変えるチャンスがあると思う。5 年間のコンセプトと質的評価の指標をうまく当てはめる形にして、現状を理解したうえで（最終的な目標に向けて）どのように手を打っていくかというところが見えると、もう少し全体像が分かるかなと感じた。

A この 5 年間のコンセプトとして、環境教育や気候危機などにちょっと触れてみたいという人が訪れる場所になる、環境教育の入り口機能を目指しているところである。コロナ禍で集客が難しい代わりに、今年度はオンラインを活用した情報発信をすることに取り組もうとしている。

A 「入口」といっても、初心者だったり、環境教育等に精通しているエキスパートだったり、入口は一つだけではなくていろいろな人の入口があると考えている。今までは初心者向けに目が行っていたが、今後は様々な入口を意識して、発信していくために動き出している。

A 「入口のバリエーション」という今年度のポイントが分かった。また、入り口だけでなく、どう出口につなげていくかということも大事である。様々な事業で出口を担うパートナーを増やしたり、その質を高めていったりということも必要で、評価に関わってくる部分になると感じる。

Q 昨年度の活動報告と同じことは（コロナ禍のため）今年できないという状況で、環境プラザに来てもらうことが難しい中、どのように方法を変えて子どもたちに教育していき、来年にどうい活動報告をできるように進めていくかを考えないと、机上の空論になってしまいなかなか前に進めないのではないかと。動画やウェブの利用にも、もっと具体的なビジョンが必要に感じる。

A おっしゃる通り、今まで環境プラザがやっていた集客しての体験という方法と今のコロナ禍の状況は相性が悪く、昨年度までの事業をそのまま続けていくという形では成果を出すのは難しいと感じている。動画で体験できる見学や視聴する形の事業などできないかというのは少しずつ考えており、今年度少し実施例などがあるので、この後見ていただきご意見いただきたい。

(2) 令和 2 (2020) 年度事業計画 事務局より令和 2 (2020) 年度計画の説明を行った。新型コロナウイルス感染症による影響について、および今年度すでに実施した事業・取り組みについて説明した。また、環境プラザで作成した動画を視聴した。

●作成動画について

【ご意見】

・ 様々な動画などのコンテンツを作っていることが素晴らしいと感じた。その中で、コンテンツを紹介する際に活用できる時期の紹介があったり、学校のどういう単元に関わるコンテンツなのかの紹介があったりすれば、動画がコンテンツとしてより使いやすいものになるのではないかと思った。

- ・ 学校でも臨時休業の際に動画を作って伝える取り組みを実施してみたが、時間が長いと見てもられないことを考えると、2分程度にまとまっていて非常にコンパクトで良かった。また動画配信は一方的（な関わり）になりがちだが、最後に行動を促す仕掛けがあった。情報には限界があるので、情報発信後に現実の環境に向きあえる仕組み、さらには子どもたちが発信し返せる仕組みを作っていくといいと思う。
- ・ 改めてコンセプトの話になるが、先ほど話に上がったコンセプトの「入口のバリエーションを増やす」ということで考えると、動画についてもそのバリエーションの一つであると思う。利用者数などの数字がおそらく戻らない中でも、入り口の一つとしての動画製作があり、他の入り口となる他の取り組みがあり、かつ業務の負担を考えて効率よく行う。その業務の力配分みたいなものが今年中に見えてきて、来年度、再来年度にうまくつながっていくといいと思う。イノベーションの話なので急に答えが出るわけではないですが、目的の部分から事業を組みなおしていったら、あまり数字にこだわりすぎないでいいようにしていくことができるといいと感じている。
- ・ 動画の話はテクニカルな手段だが、プラザのコンセプトである「つなぐ」「動く」「変わる」「入口」が動画の中にもきちんと入っているかどうかはぶれるべきではないと思う。この話題のポイントとしては、明確にしなければならないということだと思う。5年間の計画や今の立ち位置を明確化して、今年は何をすればいいのか、どんなイノベーションを起こすのか、その成果を計る指標をどのように明確化していくのか。それは必ずしも量的なものではないというのは昨年度の運営協議会でも意見が出ている。何を目的にしていくか、変化があればあるほど明確化していかなければいけないことはたくさんあると思うし、その点でぶれるべきではないというふうに考えている。

【一連の議論に対して】

- ・ 突き抜けてやってみていいものを作りたいが、従来の事業の形もできるときにそこをなくすことはできないと思っている。ただ、例えば評価指標について、今までは来館者数などで計ってきたが、それが動画の再生数だったりSNSのフォロワー数だったり、その価値を持った数字に変わってきている気もしている。しかし、評価基準をそのままそっちに移すとちぐはぐになってしまう部分があるので、どこを目指していくかを皆さんと話しながら考えていきたい。